

暫定議題

第 30 回科学委員会に付属する大科学委員会

2025 年 8 月 25－30 日

オンライン

青でハイライトした議題／副議題項目にかかる議論は、会合開会前に文書通信により開始される予定である。

1. 開会

1.1. 参加者の紹介

1.2. 会議運営上の説明

2. ラポルツァーの任命

3. 議題及び文書リストの採択

4. SBT 漁業のレビュー

4.1. 国別報告書の発表

メンバーは、会合前に [ESC に対する国別報告書テンプレート](#) により国別報告書を提出することとされている。

ESC 27 で合意されたとおり、メンバーは、ESC に対する国別報告書（テンプレートのセクション 7 及び別添 1 の関連部分）の中で電子モニタリングシステム（EMS）に関する行動について報告すべきである。

4.2. 事務局による漁獲量のレビュー

5. 第 15 回オペレーティング・モデル及び管理方式（OMMP）に関する技術会合からの報告

6. 戦略計画の目標に対する進捗状況に関する報告

CCSBT 30 において、メンバーは、条約の全体的な目的を達成するために委員会がいかに活動するかに関する共通のビジョンを概説した改定 [戦略計画](#) を採択した。戦略計画は、「特定の行動事項に責任を負う補助機関は、それぞれの会合報告書の一部として、それぞれの行動の進捗状況について報告することが期待される」ことを明記している。メンバーは、前回合意した報告テンプレートを更新し、ESC に割り当てられた活動の進捗状況の評価を提示することが期待されている。

6.1. キャパシティ・ビルディング作業計画

CCSBT 31 は、特に発展途上のメンバーを対象として、ニーズの優先順位付け及び主要分野でのパフォーマンス向上を目指す効果的なキャパシティ・ビルディング・イニシアチブの実施を目的とする CCSBT キャパシティ・ビルディング作業計画を採択した。

ESC に対しては「ニーズ評価」の実施が期待されており、事務局は ESC 30 会合に対し、事務局による予備的な評価に関する文書を提出する予定である。

7. 科学調査計画及びその他の休会期間中の科学活動の結果のレビュー

7.1. 科学活動の結果

継続的な科学活動に関する定期的なアップデートについては事前協議で取り扱うことが想定されているが、より実質的なアップデート又は新たな作業について発表するメンバーには、本議題項目において当該事項を発表するよう要請されている。

7.2. CPUE 指数の頑健性の改善

ESC に対し、休会期間中に実施された CPUE 指数開発プロジェクトの成果が発表されることが期待されている。

さらに ESC は、2026 年の全面的な資源評価及び／又は 2027 年に実施予定の MP レビューに向けて、本活動にかかる次のステップについて検討する可能性がある。

7.3. OMMP コードのメンテナンス及び開発

コンサルタントが、OM 開発に関する 2025 年の作業計画のうち先の OMMP に関する議題項目の中では検討されなかった項目について報告する。

7.4. SBT 産卵海域モニタリングプログラムに関するキャパシティ・ビルディング

ESC 28 は、SRP の一環として、インドネシアにおける SBT 産卵海域モニタリングプログラム向けのキャパシティ・ビルディングに関する新規プロジェクトを実施することに合意した。オーストラリア及びインドネシアが本プロジェクトの進捗状況について報告することが想定されている。

8. 資源状況に関する漁業指標及び科学的指標

9. 管理方式の運用及び SBT の管理に関する助言

9.1. メタルール及び例外的状況の評価

9.2. 管理方式による 2027–2029 年の勧告 TAC

9.3. SBT の管理に関する助言のサマリー

10. 気候変動による潜在的影響

ESC 29 は、気候変動が SBT の加入又は全体的な分布に影響を及ぼす可能性に対する懸念、及び将来の ESC 会合においては SBT に関する気候変動関連の潜在的影響を示すような既存のデータについて検討及び場合によっては解析を行うべきことに留意した。

CCSBT 31 は、将来の ESC 会合において気候変動に関する常設議題項目を追加することに合意した。

11. 科学調査計画（SRP）のアップデート

本議題項目は、メンバーが新規提案及び／又は既存の SRP プロジェクトへの変更（成果物提出のタイミングを含む）について検討できるようにするための常設議題項目である。

11.1. 遺伝子標識放流プログラムに関する長期計画

CCSBT 31 は、委員会の継続的な財政的健全性にかかる懸念を踏まえ、2025 年及び 2026 年の遺伝子標識放流プログラムに対して 120 万ドルを拠出することを承認した。拡大委員会は、EC に対する ESC 29 からの助言を受けて、ESC に対し、CCSBT 32 による検討に間に合うよう、継続的な費用削減を実現するために GT 及び／又は CKMR プログラムのスコープを縮小した場合の潜在的な影響につき、OM を活用してこれを検討するよう要請した。本件については、2026 年の資源評価に続く 2027 年の OM レビューの一環としてさらに検討する必要があることが認識されている。

11.2. 2026 年に実施する未考慮漁獲死亡量（UAM）の推定に関する付託事項

ESC の3 年間の作業計画では、2026 年において、GLM 解析を単純更新する形でNCNM による UAM 推定値を更新することが規定されている。ESC は、この活動のタイミング、コンサルタント及び付託事項について確認すべきである。

12. 電子モニタリングシステム（EMS）

メンバーは、将来の ESC 会合において EM/S 関連の課題に対処するための議題項目を設けることに合意した。ESC 29 において、EM プログラムを運用しているメンバーは休会期間中に協力して作業を行い、ESC 30 に対し、EM によりどのように情報が収集されるのか、またこれがどのように SOPS の要件を満たすのかを提示することに合意した。

13. 2026 年におけるデータ交換要件

14. 調査死亡枠

15. 2026 年及びそれ以降の作業計画、スケジュール及び調査予算

15.1. 2026 年の調査活動案の概要、スケジュール及び見込まれる予算と、作業計画及び予算に対する科学調査計画の影響

15.2. 次回会合（ESC、OMMP 及び関連する補助機関を含む）の開催時期、期間及び構成

16. その他の事項

16.1. 独立科学諮問パネルの今後に関する助言

独立科学諮問パネルメンバーの3 年間の任期は今年が最終年となっており、CCSBT 32 においてレビューが行われる予定である。本議題項目は、ESC に対し、EC によるレビューに向けた見解を提示する機会を提供するものである。

16.2. ERSWG と ESC の活動を調和させるためのプロセス案

EC 31 は、ERSWG と ESC との間における効果的な情報共有及び活動の調整に資するようなプロトコルを策定するためのプロセスを事務局がリードすることに合意した。

17. 会合報告書の採択

18. 閉会